

【資料1】

平成23年度 玄海町立値賀中学校 学校評価計画

1 学校教育目標
ふるさとを愛し、生きる力を育む生徒の育成

2 学校経営ビジョン
《めざす生徒像》「探究」礼儀」「忍耐」を基盤として、ふるさとを通して豊かな心を培い、心身ともに健康でたくましい生徒 《めざす教師像》 1 生徒のやる気とよさを伸ばす教師 2 わかる授業、楽しい授業を実践する教師 3 豊かな人間性と活力ある教師 4 心身ともに健康で信頼される教師 《めざす学校像》 1 学ぶ喜びが味わえ、学力が向上する学校 2 生徒一人一人が明るく生き生きと活動する学校 3 協力的、思いやりのある学校 4 励み合い、磨き合い、前進する学校 5 保護者、地域に信頼され、安心で安全な学校

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
① 学校経営の充実 ② 基礎学力と学習習慣の定着を図る教育の推進 ③ 規範意識を養い、豊かな感性を育む心の教育の推進 ④ 生徒理解に徹した積極的な生徒指導の推進 ⑤ 安全・安心な教育環境整備の推進 ⑥ 健康教育の充実と体力の向上	危機管理、生徒指導、心の教育については、全職員共通理解・共通指導により、概ね目標が達成できた。しかし、学力向上については、全国・県の学習状況調査の結果では全教科において平均を上回ることはできなかった。そのためには、校内研修会と学習環境の改善を充実させ、教職員の意識を高め、生徒の意欲向上はもとより家庭の協力を得られるように努力していきたい。

5 総括表

① 学校経営の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の資質向上	教職員の服務規律の保持及び生徒の学力向上へ向けての資質向上を図る	通知文・新聞記事等を配布し、職員会議、職員朝会等で紹介し意識を高める。 教育センター研修講座を始め、各種研修会へ年間一人一回は参加する。
教育活動	○校内研修(主体的な学習・ICTの利活用)	校内研究の充実 ICTの利活用	全職員がテーマを持って、意欲的に校内研修に取り組む。ICT支援教員をフルに活用し、積極的にICTを利活用する。 電子黒板を使いこなせるようになる。	校内研修と学力向上を関連させ、全職員参加の共通テーマに基づく授業研究会を実施する。 PCを使った授業をめざす。 電子黒板の利活用について講習・演習を行い、全職員が授業で利活用できるようにする。
教育活動	○小中連携	小中連携の推進	町内の4小中学校の共通テーマである「宿題等提出物の期日内提出の徹底」「きちんと止まってからのあいさつをする！」を徹底する。 互いの授業を参観しあう。	全職員による共通理解・共通指導により、共通テーマである「宿題」と「あいさつ」を徹底させる。 公開授業や授業参観の案内を出し、参観後は感想や意見をいただく。

② 基礎学力と学習習慣の定着を図る教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	個に応じたきめ細かな指導・楽しくわかる授業に向けた指導方法の改善工夫	基礎的基本的な内容を確実に理解させる。 自主学習の力をつけ、意欲的に学習に臨む生徒を育成する。 身につけた知識・技能を活用して、自分の意見や考えを言語表現できる生徒を育成する。 地区の基礎学力テストでの合格率90%を達成する。	授業目標を明確化にし、より分かる授業を展開する。 数学・英語・社会では、少人数・TT授業を実施し、学力の向上をめざす。 地区の基礎学力テストを利用し、学習意欲の向上と達成感を味わわせる。
教育活動	○読書活動	読書活動の充実	朝の会での全員読書を実施する。 年間一人35冊以上の読書数をめざす。	朝の会はもちろんのこと、昼休み・給食の準備時間等を利用し、読書に取り組ませる。
教育活動	○家庭学習	家庭学習の定着	「学習の手引き」を保護者とともに熟読させ、家庭学習の意義を理解させる。 家庭学習の時間の把握とともに、宿題の点検を確実に実施する。	学力の向上との関連が強いので、平常日と休業日の家庭学習時間を定め、確実に教科担任で点検を行う。提出しなかった生徒には指導をし、必ず提出させる。

③ 規範意識を養い、豊かな感性を育む心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳の時間の充実 ボランティア活動の充実	学校公開や授業参観で積極的に道徳の授業を公開する。 生徒会を中心としたボランティア活動をもっと充実させ、県下に広めていく。	道徳の授業を必ず一回以上、授業参観で行う。 生徒会活動、特にボランティア活動を通して、人に対する思いやりの心と奉仕の精神を育ませ、広めていく。
教育活動	○基本的な生活習慣の定着	基本的な生活習慣の定着	本校のめざす生徒像でもある「探究」「礼儀」「忍耐」の精神を全教職員共通理解のもと、学校教育活動全体はもとより、家庭の協力を得て確実に培っていく。	学活ノートや学級通信を活用し、家庭と連絡を取ることで、基本的な生活習慣の定着を意識づける。 事あるごとに三つの精神について触れ、自覚と誇りをもたせる。また、校歌をしっかりと歌うことで、値賀中生徒としての誇りをもたせる。

④生徒理解に徹した積極的な生徒指導の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	生徒理解の上立った生徒指導の充実	生徒指導について共通理解・共通指導を行う。今まで問題行動がなかったと言って、決して気と手を抜かない。	生徒一人一人の特性に応じた指導や声かけを行い、生徒との信頼関係を深める。定期的に情報交換を行い、その都度対策等を協議する。遅刻を無くし、元気な声であいさつができるように、朝の当番指導を実施する。
教育活動	○教育相談	教育相談の充実	地域の実態、生徒の実態を確実に把握し、個に応じた指導を心掛け、不登校生徒が出ないよう最善の努力をする。スクールカウンセラーとの連携・協力を図る。	教育相談のアンケート等の結果を活用しながら、定期教育相談を実施し、特に個別対話を重視し実践していく。SCの積極的な活用を図り、町支援センターと連携し、不登校の生徒がでないような予防的措置を図る。
⑤安全・安心な教育環境整備の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○危機管理体制の整備	危機管理体制の整備と充実	改訂版の危機管理マニュアルをもとに、職員の危機意識を高める。毎月の安全点検を確実にを行う。	本校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成し、早い時期に研修会を開き、職員の危機意識を高める。安全点検を定期的(月一回)、随時に行い、不備な箇所等があれば早めに修理・修繕を行う。
⑥健康教育の充実と体力の向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体力づくり	「生きる力」を育むための体育・食育の増進	知育・徳育・体育・食育のバランスのとれた人間形成をめざして指導を行う。	食育の授業を計画的に取り入れ、食と生活との関わり、食と健康に対する意識を高める。保健便りや集会等を通して、「早ね、早起き、朝ごはん」の大切さを伝える。
教育活動	○部活動	部活動の充実	部活動の推進と充実 集団規律の形成と顧問との信頼関係づくり	部活動を推進し、健康推進をはじめ、人格形成や人間関係の構築等も視野に入れて指導・助言を行う。また、それに伴い体位・体力の向上をねらい、健康維持と自己管理能力を身につけさせる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目